施策評価シート (評価対象年度：令和元年度)

1. 基本的事項

① 施策名〔施策小〕	2 発達支援・障害児支援の充実	② 施策番号	4302_2
③ まちづくりの方向〔政策(章)〕	2 みんなが健やかで、みんなが助け合うまち		
④ 基本施策〔施策大(節)〕	1 子どもと大人が夢や希望を持ち、ともに成長できるまちをめざします		
⑤ 基本的方向〔施策中〕	2 子育てしやすい環境の整備		
⑥ 担当部名	⑦ 担当課名		
健康福祉部	保育子育て支援課		

2. 施策の現状把握

[1] 施策の対象・意図

① 施策の対象(誰、何に対して施策を実施するのか)	障害児通所支援の給付を必要とする18歳未満の子ども
② 意図(対象をどのような状態にしたいのか。何を狙っているのか)	対象となる児童の適正に応じ、自立した日常生活又は社会生活を営めるよう、必要な療育が受けられるように支援する。
③ 環境(この施策を取り巻く状況はどのような状態なのか、また、国や府の動きはどのような状態か、今後どのように変化していくと考えられるか)	児童発達支援事業、放課後デイサービス事業等、障害児通所支援事業の利用を希望する保護者に、申請に基づき個々の支援の必要性を把握し、児童福祉法に基づき審査を行っている。ニーズの増加に伴い、事業所も増加し、事業費は年々大きく膨らんでいる。

[2] 施策指標及び推移

施策指標(成果指標)	単位	指標とした理由・考え方
① 通所受給者証発行数 計算式	件	受給者証保有者の利用状況を把握する
② 年間延べ利用人数 計算式	人	支援を受けている児童の利用状況を把握する
③ 給付費支払い額 計算式	千円	事業実施による給付状況を把握する

指標名	単位		H29実績	H30実績	R1実績	R2見込	R3目標	備考
① 通所受給者証発行数	件	目標値						
		実績値	288	302	316	—	—	
		達成率						
② 年間延べ利用人数	人	目標値						
		実績値	3,202	3,207	3,486	—	—	
		達成率						
③ 給付費支払い額	千円	目標値						
		実績値	411,052	430,793	466,051	—	—	
		達成率						

[3] 施策を構成する事務事業

	事務事業名	成果指標				総事業費(千円)			事務事業評価結果		重点化	
		指標名	単位	H30実績	R1実績	R2見込	H30実績	R1実績	R2見込	総合評価		今後の方向性
1	障害児通所給付事業	年間延べ利用人数	人	3,207	3,486	—	439,268	475,127	489,933	A	イ b	◎
2												
3												
4												
5												
6												
7												
8												
計	1						439,268	475,127	489,933			

3. 施策の評価

評価の視点	説明・コメント等
①本施策の意図すること(目的)は、上位施策(施策中)の達成にどのように貢献しますか。 (施策所管課等としての考えをお示ください。)	発達支援が必要な児童に対し、障害児通所支援サービスを提供することで保護者の支援を行い、対象となる児童の適正に応じ、自立した日常生活または社会生活を営めるようにすることで、子育てしやすい環境を整える。
②本施策で設定した指標から何が読み取れますか。 (2[2]の表の数値の推移から分析できることをお示ください。)	平成29年度実績と、令和元年度実績を比較すると、受給者証発行数は約10%の増加、延べ利用者数は約9%の増加、給付費支払い額は約13%の増加で、少子化であっても、支援を必要とする児童は増加している。
③本施策において市民、団体等との役割分担や市の関与は適切ですか。 (施策所管課等としての考え(理想と現実)をお示ください。)	対象となる児童の適性に応じ、自立した日常生活又は社会生活を営めるよう、障害児通所支援の給付を適切に行っている。
④施策を構成する事務事業は適正ですか。 (2[3]を踏まえ、施策目標に対し事務事業にずれはないか、数は適正かについて考えをお示ください。)	受給者証発行数も増加しているが、サービス提供する事業所も増加している。需要に対し供給量は適正であると考え。
⑤施策を構成する事務事業の中で重点化及び縮小化についてどのように考えますか。 (2[3]において、◎、○、▲とした理由をお示ください。)	支援を必要とする児童が増加していることから、事業の縮小は難しいと考える。

4. 一次評価(所管課評価)

	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある
一次評価	B	障害児通所支援サービスの利用者が大幅に増加し、広く支援が行われているが、かかる事業費も大きくなっている	

5. 改革、改善案

即時的対応 (すぐに取り組む改善案)	職員の専門知識の向上
短期的対応 (1、2年のうちに取り組む改善案)	専門職員(相談支援専門員)の配置
中長期的対応 (3~5年をめぐりに取り組む改善案)	—

6. 二次評価(行革・財産活用室評価)

	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある
二次評価	B	通所給付事業の利用者が増加している中で、適切にサービスが提供されている。 利用者増に対して適切なサービスが継続して提供されるよう民間事業者と連携し取組を進められたい。	